

(その2)

履 歴 書			
氏 名	カタカ ヒロアキ 片岡 寛章	生年月日	1957年 12月 13日 (満68才)
本 籍 地 又は国 籍			
現 住 所			
学 歴			
1976年 3月 1982年 3月 1988年 9月	高知県 私立土佐高校卒業 宮崎医科大学医学部医学科卒業 宮崎医科大学大学院医学研究科博士課程修了		
職 歴			
1988年 10月 1989年 9月 1991年 10月 1998年 10月 2001年 8月 2003年 10月 2009年 10月 2014年 4月 同上 同上 2015年 10月 2018年 10月 2021年 10月	宮崎医科大学助手 (医学部病理学第二講座) 米国タフツ大学医学部細胞生物学教室ポスドクトラルフェロー 宮崎医科大学助手 (医学部病理学第二講座) 宮崎医科大学助教授 (医学部病理学第二講座) 宮崎医科大学教授 (医学部病理学第二講座) 宮崎大学教授 (医学部病理学講座腫瘍・再生病態学分野) 宮崎大学医学部 副学部長 (教務担当) 兼任 (～2014年) 宮崎大学医学部附属病院 副病院長 (臨床教育研究担当) 兼任 (～2018年) 宮崎大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター長 兼任 (～2016年) 宮崎大学医学部附属病院 臨床研究支援センター長 兼任 (～2018年) 宮崎大学学長特別補佐 (～2017年) 宮崎大学医学部長 宮崎大学理事 (研究・企画担当)・副学長 (現在に至る)		
資 格			
1982年 5月 1988年 9月 1993年 3月 1994年 8月 2006年 4月	医師免許 (医籍登録第264869号) 医学博士 (宮崎医科大学甲46号) 死体解剖資格認定医 (第6194号) 日本病理学会認定病理専門医 (登録番号 1786号) 日本病理学会病理専門医研修指導医 (登録番号 1786号)		
賞 罰			
2000年 10月 2000年 11月 2017年 4月	日本ヒト細胞学会学術賞 日本病理学会学術研究賞 日本病理学賞		

業 績 概 要

(教育に関すること)

- 1) 宮崎大学医学部教授として、約20年にわたり病理学講義と実習を担当した。また大学院指導教員として30名余の博士号(医学博士)取得者を直接指導した。
- 2) 教育担当副医学部長として医学部教務委員会を所轄した(2009～2014年)。医学科カリキュラム体系の改革(講座別の臨床医学講義から臓器別・疾患体系別の講義への改変)に取り組んだ。
- 3) 宮崎大学医学部附属病院初期臨床研修センター長を務めた(2014～2016年)。
- 4) 宮崎大学医学部長(2018年～2021年)として、
 - (1) 医学科の「国際基準に沿った医学教育分野別評価」受審(2018年)に対応し、評価基準適合認定(認定期間:2019～2026年)に尽力した。
 - (2) 医学科地域枠の40名への拡充と医学科臨時増定員の返上、前期入試への理科学科目全面導入をはじめとする医学科入試制度の抜本的改革を遂行した。
 - (3) 東京慈恵会医科大学との大学間包括的連携協定締結(2020年)に尽力した。これは後に文部科学省「ポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業(2022～2028年)」の獲得としても結実した。
- 5) その他、宮崎県立看護大学、福井大学、高知大学、山口大学などで非常勤講師(人間病態学、病理学)を継続的に務めた。

(研究に関すること)

1. 著書・論文

主な原著論文(186編の原著論文より抽出; *責任著者)

- 1) Kataoka H, Decastro R, Zucker S, Biswas C: Tumor cell-derived collagenase-stimulatory factor increases expression of interstitial collagenase, stromelysin, and 72-kDa gelatinase. *Cancer Res.*, 53: 3154-3158 (1993).
- 2) Kataoka H, Uchino H, Iwamura T, et al.: Enhanced tumor growth and invasiveness *in vivo* by a carboxy-terminal fragment of α 1-proteinase inhibitor generated by matrix metalloproteinase: A possible modulatory role in natural killer cytotoxicity. *Am. J. Pathol.*, 154: 457-468 (1999).
- 3) Kataoka H, Hamasuna R, Itoh H, et al.: Activation of hepatocyte growth factor/scatter factor in colorectal carcinoma. *Cancer Res.*, 60: 6148-6159 (2000).
- 4) Kataoka H, Shimomura T, Kawaguchi T, et al.: Hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 is a specific cell surface binding protein of hepatocyte growth factor activator (HGFA) and regulates HGFA activity in the pericellular microenvironment. *J. Biol. Chem.*, 275: 40453-40462 (2000).
- 5) Itoh H, Kataoka H* et al.: Regeneration of injured intestinal mucosa is impaired in hepatocyte growth factor activator-deficient mice. *Gastroenterology*, 127:1423-1435 (2004).
- 6) Tanaka H, Kataoka H* et al.: Hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 (HAI-1) is required for branching morphogenesis in the chorioallantoic placenta. *Mol. Cell. Biol.*, 25: 5687-5698 (2005).
- 7) Uchiyama S, Kataoka H* et al.: Enhanced expression of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 2-related small peptide (H2RSP) at the invasive front of colon cancers. *Gut*, 56: 215-226 (2007).
- 8) Fukushima T, Kataoka H* et al.: Silencing of insulin-like growth factor binding protein-2 (IGFBP-2) in human glioblastoma cells reduces both invasiveness and expression of progression-associated gene CD24. *J. Biol. Chem.*, 282: 18634-18644 (2007).
- 9) Nagaike K, Kataoka H* et al.: Defect of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1/serine protease inhibitor, Kunitz type 1 (Hai-1/Spint1) leads to ichthyosis-like condition and abnormal hair development in mice. *Am. J. Pathol.*, 173: 1464-1475 (2008).
- 10) Cheng H, Kataoka H* et al.: Hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 regulates the epithelial to mesenchymal transition through membrane-bound serine proteinases. *Cancer Res.*, 69: 1828-1835 (2009).
- 11) Kawaguchi M, Kataoka H* et al.: Hepatocyte growth factor activator is a serum activator of single-chain precursor macrophage-stimulating protein. *FEBS J.*, 276:3481-3490 (2009).
- 12) Takeshita M, Kataoka H*, et al.: Proanthocyanidin from blueberry leaves suppresses expression of subgenomic hepatitis C Virus RNA. *J. Biol. Chem.*, 284: 21165-21176 (2009).
- 13) Kawaguchi M, Kataoka H* et al.: Membrane-bound serine protease inhibitor HAI-1 is required for maintenance of intestinal epithelial integrity. *Am. J. Pathol.*, 179:1815-1826 (2011).
- 14) Baba T, Kataoka H* et al.: Loss of membrane-bound serine protease inhibitor HAI-1 induces oral squamous cell carcinoma cells invasiveness. *J. Pathol.*, 228: 181-192 (2012).

- 15) Hoshiko S, Kataoka H* et al.: Hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 (HAI-1/Spint1) is a suppressor of intestinal tumorigenesis. *Cancer Res.*, 73: 2659-2670 (2013).
- 16) Haruyama Y, Kataoka H*, et al.: High pre-operative levels of serum N-terminal subunit of glypican 3 are associated with poor prognosis in patients with hepatocellular carcinoma after partial hepatectomy. *Int. J. Cancer*, 137: 1643-1651 (2015).
- 17) Kawaguchi M, Kataoka H* et al.: Hepatocyte growth factor activator inhibitor-2 stabilizes Epcam and maintains epithelial organization in the mouse intestine. *Commun. Biol.*, 2:11 (2019).

主な総説

- 1) Kataoka H*, et al.: Hepatocyte growth factor activator (HGFA): pathophysiological functions *in vivo*. *FEBS J.*, 277: 2230-2237 (2010).
- 2) Kataoka H*, et al.: Hepatocyte growth factor activator inhibitors (HAI-1 and HAI-2): emerging key players in epithelial integrity and cancer. *Pathol. Int.*, 68: 145-158 (2018)
- 3) 片岡寛章：新たな上皮完全性維持機構 - 細胞膜結合型セリンプロテアーゼとインヒビター. *実験医学* 36(3): 438-444 (2018)

主な著書

- 1) Kataoka H: Hepatocyte Growth Factor Activator. In: *Handbook of Proteolytic Enzymes*, 3rd edition. Rawlings ND & Salvesen GS (Eds.). Chapter 660. Oxford: Academic Press (2013).
- 2) Kataoka H, Fukushima T: Pericellular activation of peptide growth factors by serine proteases. In: *Regulation of Signal Transduction in Human Cell Research*. Shinomiya N, Kataoka H and Xie Q (Eds.). pp183-197. Springer (2018).
- 3) Kataoka H, Shimomura T: HGF Activator (HGFA) and its inhibitors HAI-1 and HAI-2: Key players in tissue repair and cancer. In: *Extracellular Targeting of Cell Signaling in Cancer*. Janetka JW and Benson RM (Eds.). pp69-90. Wiley (2018).

2. その他（受賞等特記すべき事項を年月順に列記）

- 1) 2000年 日本病理学会学術研究賞を受賞し、第46回日本病理学会秋期特別総会においてA演説（癌細胞の産生するセリンプロテアーゼインヒビターの癌細胞増殖と浸潤における意義）を行った。
- 2) 2017年 日本病理学賞を受賞し、第106回日本病理学会総会において宿題報告（細胞周囲微小環境におけるプロテアーゼ活性制御とその破綻がもたらす上皮組織の病態）を行った。
- 3) 2026年 国際学術誌 *Human Cell* 編集長業務に対して出版会社（Springer Nature）から Editorial Contribution Award 2026 が授与された。

（学会及び社会的活動に関すること）

1. 学会活動（学会・協会等における活動状況を年月順に列記）

- 1) 日本癌学会（1982年入会、2001年より評議員、2023年より名誉会員）
- 2) 日本病理学会（1983年入会、1992年より評議員、2017～2019年学術委員、2020～2022年研究推進委員会委員、2023年より功労会員）
- 3) 日本ヒト細胞学会（1984年入会、1994年より評議員、2012年より理事）
- 4) 日本がん転移学会（1992年入会、2008年より評議員、2023年より功労会員）
- 5) その他、日本分子生物学会、日本病態プロテアーゼ学会、米国癌学会（AACR）、米国消化器病学会（AGA）、国際病理アカデミー（IAP）などの会員として活動した。

2. 社会的活動（国・地方公共団体の委員会及び各種団体における活動状況を年月順に列記）

- 1) 宮崎県地域結集型共同研究事業に関わる共同研究推進委員会委員（2005～2007年）
- 2) 日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員（2008～2010年、2015～2021年）； 特別研究員等審査会専門委員（2011～2013年）； 国際事業委員会書面審査員（2011～2013年）
- 3) メディポリス医学研究財団学術賞選考委員（2013～2017年）
- 4) *Human Cell* (Springer Nature) 編集長（2013～現在に至る）
- 5) 日本医学教育評価機構 理事（2019～2021年）・財務委員会委員（2021～2023年）
- 6) 宮崎県医師会 医療事故調査支援委員会委員（2019～2023年）
- 7) （公益財団法人）医学教育振興財団 評議員（2020～現在に至る）
- 8) 全国医学部長病院長会議医学部・医科大学の白書調査委員会委員（2022～2024年）

(経営・管理運営に関すること)

1. 組織改革に関して

- 1) 宮崎大学医学部副医学部長(教育担当 2009～2014年)として医学系研究科改組(医学系研究科を廃止して看護学研究科と医学獣医学総合研究科修士課程を設置)に尽力した。
- 2) 宮崎大学医学部附属病院副院長(教育研究担当 2014～2018年)として、臨床研究の支援と指針遵守管理および進捗管理を目的に臨床研究支援センターを設立し、初代センター長として組織整備を行った。
- 3) 宮崎大学医学部長として、宮崎県と連携して、県外学生枠も含めた医学科地域枠40名制度の導入を決めると共に2018年度改正医療法に基づいた「キャリア形成プログラム」の早期確立に取り組んだ。
- 4) 宮崎大学理事(研究・企画担当)として、以下の組織改革を行った。
 - (1) 企業(特に県内企業)と宮崎大学との新たなインターフェースとして企業の意見と要望を大学の教育研究に反映させると共に、産学共創によるオープンイノベーションを目指して宮崎大学産学共創会議を設置した(2023年2月)。
 - (2) 文部科学省教育研究組織改革分(組織整備)への概算要求を行い、先端研究推進本部とGX研究センターの設置を実現した(2024年4月)。
 - (3) 技術職員の全学組織化を実現し、総合技術センターを設置(2025年4月)した。またURA室の組織整備(2025年4月)も行った。
 - (4) 錦本町ひなたキャンパス開設にむけたワーキンググループ長として、2025年4月の開設に尽力した。
 - (5) 宮崎県と連携してスポーツメディカルセンターを医学部に設置した(2025年4月;同年5月に九州初となる国立スポーツ科学センター・ハイパフォーマンスセンター連携施設に指定され認証を得た)。
 - (6) 看護学研究科の改組(心理科学修士課程の設置、看護学博士後期課程の設置、健康科学研究科への名称変更)に取り組んだ(2027年4月開設予定)。

2. 外部資金の獲得に関して

2021年10月の研究・企画担当理事着任以来、国の大型競争的資金への応募に関して、全学的ないし部局融合的対応を主導し、外部資金の獲得に尽力してきた。

1) 国の競争的資金獲得実績(全学的ないし部局融合的案件のみ記載)

- (1) 2022年4月 文部科学省大学改革推進等補助金「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度人材育成事業」(補助金交付決定額:133,317千円)
- (2) 2023年5月 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」(本学分の補助金交付決定額:510,000千円)
- (3) 2024年7月 文部科学省人工知能等社会実装研究拠点事業費補助金(オープンアクセス加速化事業)(補助金交付決定額:159,376千円)
- (4) 2025年1月 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」(本学分の補助金交付決定額:687,000千円/5年間)
- (5) 2026年7月 国立研究開発法人科学技術振興機構「先端研究基盤刷新事業(EPOCH)」に代表校として採択された(連携大学:長崎大学、鹿児島大学、琉球大学)。
(補助金交付決定総額:1,932,000千円/3年間)

2) 寄付金獲得への取り組み

宮崎大学産学共創会議の参加企業(38社)からの寄附金(2026年7月時点での総額176,898千円)

上記のとおり相違ありません。

また、学長候補者となった場合は、学長に就任することを誓約します。

令和8年 7月31日

氏名

平岡寛章

- (注) 1. 用紙は、日本産業規格A4縦型とし、履歴を4枚以内で作成してください。
2. この履歴書の内容は、選考過程において公表されます。